

連携室だより

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2023.1

vol.201



## 新年明けましておめでとうございます。

院長 田中 康博

令和5年、新年のあいさつを申し上げます。

新型コロナウイルスの流行が始まり、丸3年経過しました。今まで経験したことのない感染症で医療界も行政も混乱を極め、浮足立ったことも事実ですが、私たちは感染管理の重要性など多くの学びもあったと思っています。当院も建屋が古く新興感染症対策など全く考えていなかった頃の構造ですので、そのためにたびたび通常診療を止めざるを得ない状況に陥ってしまいました。この3年近く、私が考えているパフォーマンスが充分行えず、忸怩たる思いで過ごして参りました。コロナウイルス自体の弱毒化は明らかで通常の風邪レベルまで落ちてくれれば幸いと考えています。今年には新型コロナウイルス感染症に振り回されることない1年になればと期待しています。

地域医療は限られた医療資源をフル活用し、鹿児島県の皆様の健康を守らなくてはなりません。地方は都市部と比べ、少子高齢化、人口減少などが先行して悪化している地域も認めます。さらに国、県の財源も乏しくなっています。鹿児島の皆さんで知恵を出し合って、全国に誇れる医療システムを構築する必要があると思っています。今後はどんな立ち位置で高度医療・急性期医療を、効率よく、継続的に鹿児島の皆様に提供できるか、持続可能な医療システムが作れるかにかかっていると思っています。今年も、私共ができることはしっかりと行い、鹿児島の医療に貢献すべく努力して行く所存です。

### 「がん」について

手術法や放射線療法そして薬物化学療法の発達で以前と比べ、治療効果がかなり上がってきました。素晴らしい進歩ですが、それに伴い、病気と仕事や学業など両立しながら病気と闘う時代になってきました。一人で戦い、一人で頑張っている患者さん多いと思いますが、様々な相談窓口があります。当院のメディカルサポートセンターにも気軽に相談いただき、いろんな支援も活用しながら仲間を作って病気に立ち向かっていきましょう。一人で抱え込むことはやめるようにしましょう。各医療機関とも連携しながら、生きがいの感じ、病気に対峙する環境を充実させるべきと思っています。

### 「心臓・大血管」について

当院は治療率がきわめて高い施設です。従来の心臓・大血管手術、狭心症・心筋梗塞などのカテーテル治療、不整脈のカテーテルアブレーション、ペースメーカー、埋込型除細動器などの治療をはじめ、TAVI(カテーテルによる大動脈弁置換術)や Mitraclip(カテーテルによる僧帽弁形成術)など質・量ともに九州(西日本)でもトップレベルです。皆様に合った治療方針が選択できます。また重複や過剰な検査は、やらない医療を目指しています。

### 「脳卒中」について

脳血管内科、脳神経外科などカテーテルを使用した手術件数がかなり伸びています。カテーテル治療は迅速かつ侵襲が少ない治療で、リスクの高い患者さんにも適応可能です。治療の選択肢が増えたことは、患者さんには朗報で、この分野は今後益々発展しますし、充実すべきと考えています。

この3本柱を横断的につなぐ診療科も重要で、さらに充実すべきと思っています。多くのスタッフが一致団結し、協力しながらより質の高い医療を追求していこうと考えています。今年もよろしくお願いたします。

# 幹部年賀状



副院長  
中島 均

明けましておめでとうございます。

昨年もコロナで始まりコロナで終わったような一年でした。コロナとの戦いでは、ワクチンを含めた様々な治療手段を用いても克服したとは言えない状況であろうと思われま。また最近のコロナがほとんどインフルエンザ並みの死亡率になった点や、全国民の5～6人に一人が感染したことがあるありふれた感染症となった事、さらに国や国民の大半が日常の経済活動を優先する方向に舵を切ったことなど、日々医療現場でクラスター発生との戦いを継続している私たちとは、一般の方々との考え方にかかなりのギャップが生じてしまっているように思います。原稿を記載している現在でも、未だに院内の面会制限は継続しており、会食も5人以上は禁止というような、患者職員共に世間とは隔絶した辛抱をお願いしている状況であり、とてもコロナ以前とは比べようも無い有様です。国立病院機構を取り巻く状況も大変厳しいものがあります。地元のコロナ対策にも最善を尽くして協力し、沖縄の医療崩壊危機に際しては職員派遣を行い、国立病院機構として東京医療センター敷地内にコロナ患者専用臨時病棟を開設した際にも、当院の医師看護師が参集しコロナ診療に従事しました。当院は宣伝やコマーシャルが不得意ではありますが、このように歯を食いしばって職員一同粉骨砕身努力しております。今年もいざという時に頼りになる病院として鹿児島で活動していきますので、何卒よろしくお祈りいたします。最後に皆様のご多幸をお祈りして新年のご挨拶とさせていただきます。



統括診療部長  
松崎 勉

明けましておめでとうございます。

昨年もがん診療連携、緩和ケア連携等、当院がん診療部門におきましても大変お世話になり有難うございました。本年も引き続きご指導の程宜しくお祈り申し上げます。

さて、近年、医療分野でもDXが求められ、マイナンバーカードの保険証利用が始まっており、電子処方箋の発行も始まろうとしています。個人の健診情報や検査データ、服薬情報が管理されることで、医療現場でより正確な情報に基づいた診療ができることが期待されます。しかしながら、現場は国の推進通りには普及が進んでいないようです。また、電子カルテの管理業務をしていますと、昨今の電子カルテのサイバー攻撃への対応も頭が痛いところで、診療連携をオンライン化することも可能ですが、運用に歩を進めることに躊躇いが生じます。一方、アドバンス・ケア・プランニングの推進など患者さんの意思に基づく医療の展開も必須となっておりますが、デジタル化の推進が、時とすれば心に寄り添うことを忘れさせているのではないかと我に返ることも経験します。

デジタル化と患者さんの心をサポートする体制の両立を図りながら、より利便性の高い連携の構築に取り組む一年としていきたいと思っております。

本年も、どうぞ宜しくお願い致します。



臨床研究部長  
城ヶ崎 倫久

あけましておめでとうございます。

昨年は後ろ向き観察研究の同意について混乱が起きました。

2022年4月1日に改正個人情報保護法が施行されたのに合わせて「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が一部改正されたことはご存知の先生方も多いのではないのでしょうか。その中に学術研究機関等という概念が新設され、後ろ向き観察研究で個別の同意を取得しないでもいい要件は、学術研究機関等における研究に限られました。国立病院機構の病院は学術研究機関には該当しないとの判断がなされたため、過去データを用いる研究であっても適切な同意を取る研究計画にしないといけなくなりました。さらにガイダンスが出ておらず、研究手順書等の改訂も行われていないため、新たな研究にストップがかかりました。5月下旬にガイドラインが出てからは、公衆衛生の向上のために特に必要がある場合で本人の同意を得ることにより研究の遂行に支障を及ぼす恐れがある場合等には同意なしに研究が実施できるとの通達があり、ほっとしました。一周回って元に戻ったような感じですが、研究計画書には上記の文章が必要になりました。

今後も研究の同意取得には指針の改正など様々なことが起こると思いますが、注意して臨床研究の推進に尽力したいと思います。

今年もよろしくお祈り致します。



メディカルサポート  
センター長 兼  
地域医療連携室室長  
**蘭田 正浩**

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症を第7波まで経験し、一般的には落ち着きを取り戻しつつあり、ウィズコロナの社会になってきています。人の移動が増えるとともに、11月より少しずつ感染者報告数も増加してきており、第8波に入ったようです。今年度は、インフルエンザとの同時流行も視野に入れ、医療従事者の欠勤や病院クラスター回避等感染管理に注意した行動がまだまだ必要と思われ、世間一般と医療界とはギャップがあるように思われます。

当院は、がん、脳卒中、心臓・大血管を三本柱にしており、放射線・化学療法、インターベンションやカテーテルアブレーションの治療を多く施行しています。脳血栓回収療法は、昨年1月に通算200例、経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)は、10月で500例を達成し、3月にスタートした経カテーテル的僧帽弁修復術(MitraClip)は、昨年14例を治療できました。

医療は細分化・高度化し、当院でも新しい治療法などもできるようになっておりますが、単一の医療機関ですべてを完結させることは難しく、前方・後方との連携が必要です。そのため、地域の診療所・医院および地域中核病院との連携を密にし、病院訪問やWeb会議等情報発信に努めてまいります。

メディカルサポートセンターでは、これからも、地域医療連携、入退院支援、がん相談支援を中心として、日々改善を目指してまいりますので、本年もどうぞよろしく願いいたします。



事務部長  
**織田 政継**

新年あけましておめでとうございます。

昨年も、新型コロナウイルスの猛威に悩まされた1年となりました。職員の皆様には、入院・外来でのコロナ患者対応、ワクチン集団接種や臨時医療施設への派遣要請の対応などご尽力いただき心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。また、コロナ以外でも、安部元首相襲撃事件、ロシアのウクライナ侵攻を始めとする不安定な国際情勢、それに伴う原油高、原材料の高騰による電気料・食料品等の相次ぐ値上げなど、暗い話題が多かった1年でした。そんな中でサッカーワールドカップの「SAMURAI BLUE」の快進撃は、世相を明るくし、元気や勇気をもらうことができたように思います。

今年は、ウィズコロナ、アフターコロナにおける病院経営が正念場を迎えます。また、地域医療構想の議論も加速してきますので、病院の生き残りをかけた戦いに立ち向かっていく必要があります。医師の働き方改革も待たなしの状況です。さらに、人材育成、老朽化した建物設備対策など、問題は山積しておりますが、「SAMURAI BLUE」のように職員全員で一致団結して、難題をひとつずつ解決していきたいと思っております。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



看護部長  
**村田 淳子**

新年あけましておめでとうございます。

昨年も「新型コロナウイルス感染症」対応に追われた1年でした。振り返ってみますと、一般的な生活においては、少しずつコロナ以前の活動ができるようになってきましたが、病院における感染対策強化は相変わらず徹底しており、クラスター発生に伴う診療制限や面会制限など患者様・ご家族に十分な医療が提供出来ていない現状や患者側の受診控えによる病院経営への影響もいまだに続いております。今年はこのような状況を改善しつつ、地域の皆様から求められている一般急性期病院としての役割発揮とコロナ対応の両輪を上手に回していけるように取り組んで参りたいと思います。

一方、私たち医療従事者にとっては、ここ数年はWEBでの会議・研修が主体となっていましたが、昨年は対面での研修や学会なども開催されるようになり、人事交流を図るなど停滞していた活動が動き出したことを実感できた年でもありました。今後はさらに、活動の範囲を広げながら、新しいことに取り組んでいきたいと思っております。

さて、今年は「卯年」です。「これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍する年」になると考えられているようです。

皆様にとって本年が「飛躍」「向上」「実を結ぶ」1年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

# 職場紹介

## 【東2階病棟】

東2階病棟（ICU）は、ベッド数16床で、心臓血管外科、外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科等の大手術後や緊急入院など重症患者の受け入れがあります。医師や臨床工学技士、理学療法士、栄養士などとともにチーム医療を行いながら一日も早く回復し、一般病棟、そして地域へ戻ることができるように、24時間体制で集中的な治療・看護を提供しています。

今年度から、集中治療領域において、特に重篤な状態の患者およびその家族等に対する支援を推進する観点から、患者の治療に直接関わらない専任の担当者である「入院時重症患者対応メディエーター」が関わるようになっていきます。メディエーターと医師や看護師が共有し関わる事で、患者・家族が、治療方針や内容の理解を深め、意向の表明の支援や不安の軽減につながっています。

また、看護師は、ICUの他に心臓カテーテル検査室（3室）、透析室（4床）、救急外来等も対応しています。危機的な状況にある患者に対し、状態を的確に把握し、多職種と連携を図りながら科学的根拠に基づいた看護を実践しています。当病棟では、クリティカルケア特定認定看護師、呼吸療法認定士、デバイス認定士など様々な資格を有した看護師が配置されており、質の高い看護と安全管理に努めています。

（文責：東2階病棟師長 池田 智子）

ICU



救急外来（ドクターカー出動）



カテーテル検査室



透析室



# 県総合防災訓練への 参加の報告

2022年11月5日に南海トラフ地震ならびに津波を想定した災害訓練（志布志市有明町）に当院DMATも参加しました。陸自、海自、海保、消防、警察、DMAT（12チーム）の合同訓練でした。訓練内容は被災者のヘリや救急車で搬送や救護所に到着した被災者のトリアージと治療並びに広域搬送も視野に入れた模擬訓練でした。現地住民の模擬被災者としての参加もあり、かなりリアルで具体的な訓練でした。



日頃病院という狭い空間の中で勤務している我々にとって自衛隊や消防や警察などが組織としてどのように指示系統を組み立て、指示をどの様に機動させていくのかを生で見学することが出来ました。今後の当院DMATの機動という観点からみて、非常に大きな収穫になったと感じました。

（文責：救急科 田中 秀樹）



# メディカルサポートセンター

～つ・な・ぐ～

NO.1



新年、あけましておめでとうございます。  
今年も、各地域医療機関の皆さまと連携を図り患者さま・ご家族の支援・  
介入に努めて参ります。どうぞ宜しくお願い致します。 MSCスタッフ一同

今年より、メディカルサポートセンターでは定期的に活動状況など  
地域医療機関へ情報を発信し、連携を深めていきたいと思ひます。

第1回目はコロナ禍で取り組んでいる、「**Webを活用した病院訪問!**」について

Webを活用した病院訪問!  
何するの?



- ・ コロナ禍で病院訪問が出来ない・・・
- ・ ケアマネージャーさんと面談が出来ない・・・

- ①Zoom
- ②Google Meet
- ③Face Time



①～③の端末を使用し  
退院調整看護師・MSWと  
面談できます

## <Webでの病院訪問（面談）内容>

- ・ 連携医療機関の病床状況や受け入れ条件の確認
- ・ 転院後の患者情報共有
- ・ 退院調整時の注意事項
- ・ 当院への要望・・・  
など、情報交換をさせていただきます。



面談などご希望の際は、遠慮なくMSCへお問い合わせ下さい。

■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

## 鹿児島医療センター（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

### メディカルサポートセンター

地域連携室専用FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

